

座頭沢

L
一九八三年七月一日

梨平から観音堂沢ぞいの林道を三〇分程歩くと、橋が二つあり、その二つ目の橋の下を流れているのが県境となつている座頭沢である。

八時五〇分、沢に入る。目前にF一二、F2三の二つの滝が見えている。右岸をへつって取り付き、直登してぬける。ちよつと歩くとF3八。西さんが偵察がてら五びくらしい直登するが、滑りやすいので、右岸を高捲きすることにした。

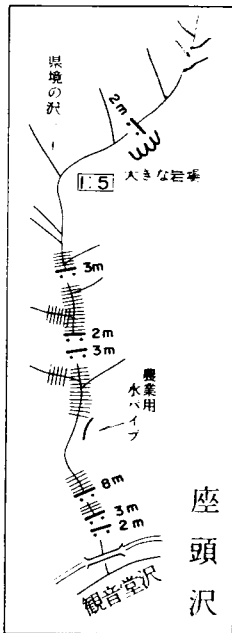
しばらくゴロ口状とナメを繰り返しながら進む。九時五〇分、左右から支沢が合流している所で休憩。このあたりで右岸に踏跡のあるのが見

えた。

二、三の小滝をいくつか越えたと二俣となる。県境は左の沢ぞいのびているのだが、私達は水量の多い右の沢に入った。

一〇時一〇分、左岸に大きな岩壁がそそり立っている所に来た。下部の方は石室状になつていて、ビバークもできそうだ。

またこの付近にはカモシカの足跡が無数についていた。兩岸にはミズナ、シドキ、アイコ、ウ



座頭沢

ルイなどの山菜が豊富なのだが、今は時期的に遅い。
しだいに狭まる沢筋を倒木をまたぎながらつめる。アイコのトゲに悩まされながら、一時源頭で昼食。
あとは左側に見える六五七ピークを目印にヤブをこぎ、一〇分程で尾根に出る。このあたりまで昔は人が入っていたのか、ところどころに踏跡が残っている。

初めに滝が連続したので、最後まで大きな滝を期待したのだが、F3八びがこの沢で最も大きな滝であつ

た。(記: 一〇二〇)

「タイム」 出合(八:五〇) ↓大岩(一

〇:二〇) ↓稜線(二:四〇)

地蔵沢

一九八三年五月二一日

観音堂沢右岸の林道からヤブをこいで地蔵沢出合より少し下流に降り立つ。地蔵沢出合の滝は、滝水が白いスダレをかけたようできれいである。観音堂沢本流の方も二条の滝(右岸の用水路からあふれた水が滝の

ようになつて落ちていて、一見三条の滝に見える)がかかっている。

一三時四〇分、地蔵沢の遊行開始。出合の滝は右岸を捲く。バンドがたくさん走っているので、確保者がいれば登りきれぬかもしれない。この滝の上はずっと

ナメである。沢幅が狭く水量にもめぐまれないのが残念である。三〇分程で二俣に出る。ここ

までは小滝はあったが、障害となるものはなかった。左俣へとルートをとる。ナメが続いている。

まもなく杉の造林地へ出る。途中から主として右岸を走っていた跡跡はここを植林する際に手入れされたものようだ。沢はブッシュがひどく、通過に意外と時間がかかるようになる。新しく成長したブッシュだけでなく、植林する前に切り払われた木々の枝などが沢を埋めているのである。最初は忠実に沢筋をたどっていたが、沢の流れもごく細くなつたところで、地蔵沢の遊行は終了として、造林地の中の歩きやすい所を選んで尾根に出る。(記: 「タイム」 地蔵沢出合(一三:四〇) ↓遊行終了(二四:四五) ↓尾根(一五:二〇)

